

第 51 号

令和 6 年 1 月 22 日(月)

教育情報紙

発行：島根県教育委員会
(教育指導課)

TEL：0852-22-6867

Mail：shidou@pref.shimane.lg.jp

児童生徒の学力育成に向けた今後の取組について

～全国学力・学習状況調査の振り返りと今後の展望～

夏季休業中に結果が返却され、各校でPDCAサイクルを回しながら学力育成に向けた取組が行われているところです。昨年の10月から11月に行った各市町村教育委員会教育長や担当指導主事等が参加する学力育成会議の意見交換の内容を踏まえ、各学校で取り組んでいただきたいこと等を以下にまとめました。

【課題】

教師の指導力向上と児童生徒の学習状況改善のための取組が必要です。特に、児童生徒がどこでどのようにつまづいているのかを見極め、学年や教科を越えて学校全体で児童生徒の指導を行うことが重要です。各学校が課題を把握し、授業改善に取り組むことが必要です。

【取組の提案】

各学校で次に挙げる取組を行うことを提案します。すでに市町村教育委員会が実施している学力育成の取組とも連携し、学校の実情に合わせた児童生徒支援に結びつけていただきたいと考えています。

1 課題解決の共有と学年部や教科部の連携強化

全教員が問題（課題のあった問題等）を解き、出題の意図や解答のポイント等を学年部や教科部等で共有します。これにより、児童生徒の実際の解答からつまづきの原因を見極め、つまづきのあった学年・教科・単元の授業改善に取り組みます。その際に、学習の系統性を考慮し、各学年・各教科で身に付ける資質・能力を明確にします。

2 全国学力調査や県学力調査の問題の活用

全国学力調査の問題は、現行の学習指導要領が目指す資質・能力にアプローチした問いが設定されており、(児童生徒がこのような問題を解けるようになる力をつける)(目指すべき)授業の具体をイメージすることができます。各単元(題材)の導入やまとめ、振り返り等に、全国学力調査や県学力調査の問題を活用しましょう。

ただし、県学力調査問題の取扱は以下の点に留意してください。

県学力調査問題用紙の取扱

- ・調査問題用紙は、3月10日(日)までは外部に出ないよう各学校で保管してください。3月10日(日)以降は、家庭に持ち帰らせたり、廃棄したりするなど、各学校で対応してください。
- ・調査問題用紙は複製や当該年度当該学年以外の児童生徒に対しての利用ができません。ただし、調査問題の内容や類似の問題については、学年を問わず授業や家庭学習等で積極的に取りあげてください。
(「島根県学力調査の活用について」を1月19日付島教指1029号でお知らせしています。)

3 資料の活用

各校の学力育成に向けて国や県が作成した資料をご活用ください。

- ①学力調査（EIOS-しまねの教育情報 Web）
- ②授業改善動画（EIOS-しまねの教育情報 Web） ID：shidou2023 パス：Shidou2023EIOS
- ③令和5年度「各教科の指導の重点」及び「授業チェックリスト」
（EIOS-しまねの教育情報 Web）
- ④令和5年度全国学力・学習状況調査報告書・調査結果資料（国立教育政策研究所）
- ⑤令和5年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会（国立教育政策研究所）
- ⑥全国学力・学習状況調査 授業アイディア例（国立教育政策研究所）
- ⑦調査結果の活用・分析の取組（文部科学省） ※特に「学校の取組事例」が参考になります。



第11回（令和5年度）科学の甲子園ジュニア

科学の甲子園ジュニア全国大会に向け、今年度は、以下の日程で島根県予選大会を開催しました。

<1次予選> 令和5年7月29日（土）
・県内4会場で実施 筆記問題
・33チーム 99名参加
・全県で上位10チームが2次予選進出

<2次予選> 令和5年9月16日（土）
・県内2会場で実施 実技競技
・10チーム 30名参加
・隠岐の島町立都万中学校
島根大学教育学部附属義務教育学校
の2チーム6名が県代表に選出

県代表の2校は、オンライン会議など事前準備を行い、12月8日（金）～10日（日）に兵庫県姫路市アクリエ姫路で開催された全国大会に参加しました。

6人のチームワークを発揮し、以下の成績を収められました。

○総合成績 第10位
○実技競技② 第1位 SHIMADZU賞

令和6年度の日程等については、4月以降にご案内しますので、生徒の皆さんへの声掛け等何卒よろしく申し上げます。



科学の甲子園ジュニア web サイト
過去問題や参加に向けた情報が集約
して掲載されています。

広げよう科学のこころ つなごう友情の絆

メディカル・アカデミー

～ 体験的な学びを通して、医療従事者を目指して学ぶ力の向上を図る ～

〈H24年度～計9回・延べ307名参加〉

離島や中山間地域を中心に医師や看護師の不足が深刻化している島根県では、地域医療を支える医療従事者の育成が喫緊の課題となっています。島根県教育委員会と島根県健康福祉部では、「地域医療現場で働く医師等から地域医療への思いを聞いたり学んだりすることを通して、地域医療へ理解を進めるとともに、理数系科目に興味・関心を持たせることによって、医療従事者を目指して学ぶ力の向上を図る」（実施要項より）という趣旨のもと、医療や科学に興味・関心がある中学生を対象とした「メディカル・アカデミー」を平成24年から夏季休業中に実施しています。これまで9回の開催で参加した中学生は、計76校から延べ307名に上ります。



〈4年ぶりに3会場で実施 各病院の協力による充実のプログラム〉

メディカル・アカデミーは、コロナ禍の影響により令和2年度より3年間の中止を余儀なくされましたが、今年度は益田赤十字病院、隠岐広域連合立隠岐病院、島根県立中央病院のご協力により、各病院での1日開催という形で4年ぶりに実施することができました。

地域医療の最前線である医療現場で、医師講話、縫合・腹腔鏡・エコー・応急手当等の模擬実習やドクターヘリの見学、医学部学生との交流、理科講座等のプログラムに参加した生徒たちは、体験的な学びを通して地域医療の現状や医療従事者の仕事への理解を深め、将来の夢や目標へ向けてどのように歩いていくかをそれぞれイメージしていました。事後アンケートでも「医療への関心は高まったか」の肯定的回答が97%、各プログラムの肯定的評価が100～86%と参加生徒の満足度は非常に高く、感想からは医療従事者を目指して学んでいく意欲の高まりがうかがえます。

【参加生徒の感想から】

- ・医学部生の方々の日々の努力を知ったことで自分の勉強のモチベーションが上がった。
- ・参加したメンバーの友達となぜ医療従事者を目指そうとしたのか、きっかけをみんなで話し合えたことがとても印象的でした。
- ・医師数密度が全国と比べてとても少ないことが分かりました。島根県で医療従事者として働きたいという気持ちがより強くなりました。
- ・医療従事者の仕事に興味がある人で集まるメディカル・アカデミーの機会は集中力や意欲が高まり、学校とはまた違う感覚になりました。本当に楽しく貴重な体験になりました。
- ・普通科か理数科かですごく迷っていたけれど、理数科に行ってみようかなという気持ちになることができました。

〈スタッフに過去の受講者の姿 医療従事者育成への好循環を創出〉

今回のご協力いただいたスタッフの中には、過去アカデミーに参加した方が2人いらっしゃいました。一人は益田赤十字病院の研修医（H24年度）、もう一人は島根大学医学部の学生（H30年度）です。アカデミーに参加した中学生が医療従事者への道を歩み、アカデミーで未来の後輩の指導にあたる。初回実施から12年を経た今、事業の趣旨を体現する好循環が生まれていることが、本事業の何よりの成果だと考えています。

本事業へのご協力と中学生の積極的なご参加を、今後ともよろしくお願ひします。



しまね数リンピック

平成 21 年から始まり、第 15 回を数えるしまね数リンピックですが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、直近 3 年間は各家庭で実施する方法で開催をしていました。今年度は 4 年ぶりに各会場で実施することができ、県内 12 会場でしまね数リンピックが行われました。

今年度の参加者は、小学生個人の部に 102 名、ペアの部に 88 名（44 組）、中学生個人の部に 77 名、ペアの部に 162 名（81 組）、合計 429 名でした。数学的な見方や考え方を活用して解く問題に小学生は 90 分間、中学生は 120 分間、じっくり考えて取り組んでいました。

参加者からは「難しかったけど解くのが楽しかったです。」「来年も参加したいです。」「普段の授業や学校では出ない応用問題を解くことができ、おもしろかったです。」「自分 1 人では解けないような問題もペアと話し合って解くことができました。発想を転換して考える問題もあって難しかったけれど楽しみながら解けました。」等の感想が寄せられました。

今後も、数学的な見方や考え方をを使って思考することのよさや楽しさを実感することのできるような問題を提供していきます。

なお、これまでの問題及び解答例はしまねの教育情報 Web EIOS に掲載していますので、ご活用ください。

○ 問題及び解答例の掲載場所

「しまねの教育情報 Web EIOS」

EIOS → 個別最適な学びのための学習支援 [ここをクリック](#)

→ 学習支援コンテンツ → しまね数リンピック

または、キーワード検索で「しまね数リンピック」と入力。

EIOS には右記 QR コードもしくは下記 URL からアクセスすることができます。

<http://eio-shimane.jp/>



○ 問題例

(小学生の部)

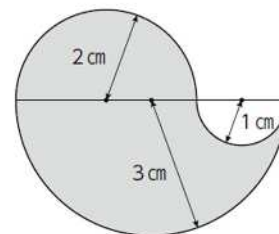
よしこさん、りゅういちさん、さとしさん、けんさんの 4 人は、5 問すべて正解すると合計の得点が 100 点になるテストを受けました。次の表は、4 人のそれぞれのテストの結果について、問題ごとの正解・不正解および合計の得点を示しています。不正解の場合、その問題の得点は 0 点とします。それぞれの問題の配点（正解すると得られる得点）は何点でしょうか。

(各 1 点)

	問題 1	問題 2	問題 3	問題 4	問題 5	合計の得点
よしこさん	不正解	正解	正解	正解	不正解	55 点
りゅういちさん	不正解	正解	正解	不正解	不正解	30 点
さとしさん	不正解	不正解	正解	正解	不正解	45 点
けんさん	正解	不正解	正解	不正解	不正解	50 点

(中学生の部)

神話のふるさと鳥根県出雲地方は、古代より勾玉の生産が盛んな土地です。武志さんは、次の図のような半径 1 cm、2 cm、3 cm の半円からなる勾玉の形を、1 辺が 12 cm の正方形の折り紙を用いて切りぬくことにしました。この正方形の折り紙から最大何個の勾玉型を切りぬくことができますか。ただし、勾玉は回転させたり、ひっくり返したりしてもよいものとします。(4 点)



また、結果についての詳細は次ページの『令和 5 年度「しまね数リンピック」の結果概要』を参照してください。

令和5年度「しまね数リンピック」の結果概要

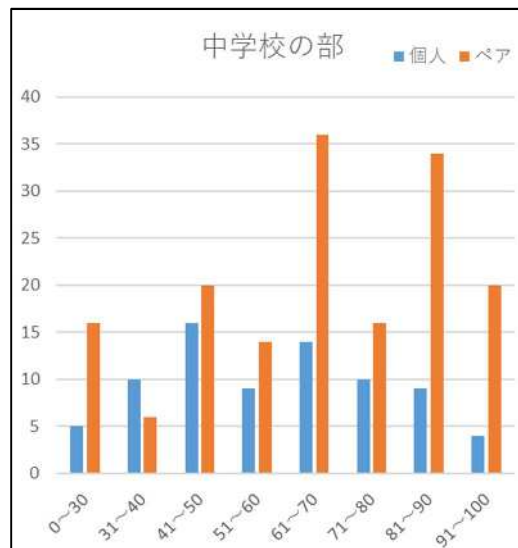
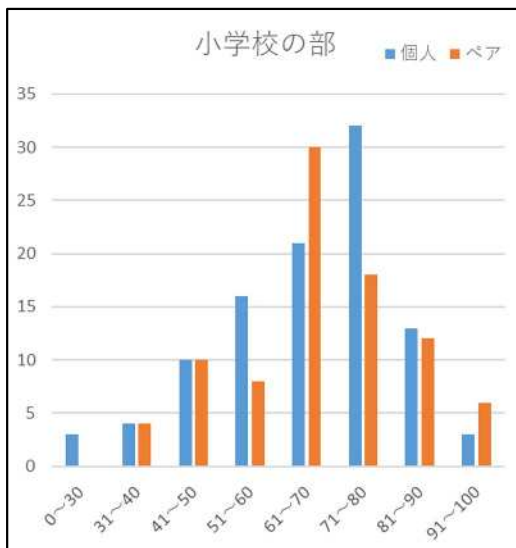
1 参加者数

(名)

市町村	小学校の部		中学校の部		計
	個人	ペア	個人	ペア	
01 松江市	30	16	13	14	73
02 安来市	4	0	6	22	32
03 出雲市	27	22	17	33	99
04 雲南市	6	4	1	8	19
05 奥出雲	2	0	0	0	2
06 飯南町	1	4	0	0	5
07 浜田市	2	2	6	0	10
08 大田市	6	4	0	2	12
09 江津市	3	12	2	4	21
10 川本町	0	0	0	0	0
11 美郷町	0	2	1	0	3
12 邑南町	1	0	1	0	2
13 益田市	11	18	12	11	52
14 津和野町	1	2	2	8	13
15 吉賀町	1	0	1	0	2
16 海士町	0	0	0	0	0
17 西ノ島町	0	2	2	4	8
18 知夫村	0	0	0	0	0
19 隠岐の島町	0	0	4	8	12
20 島大附属	7	0	9	48	64
21 私立	0	0	0	0	0
22 県立	0	0	0	0	0
合計	102	88	77	162	429

2 平均点等

部 門		令和5年度		令和4年度	令和3年度
		平均点	最高点	平均点	平均点
小学校の部	個人	65.9	92	40.2	52.7
	ペア	67.6	93		
中学校の部	個人	58.0	100	55.4	45.4
	ペア	65.9	98		



3 賞

部 門		最優秀賞	優秀賞		優良賞	
		人数	基準	人数	基準	人数
小学校の部	個人	1	85点以上	8	75点以上	21
	ペア	4		6		18
中学校の部	個人	1	85点以上	11	75点以上	6
	ペア	2		40		20
合計		8		65		65

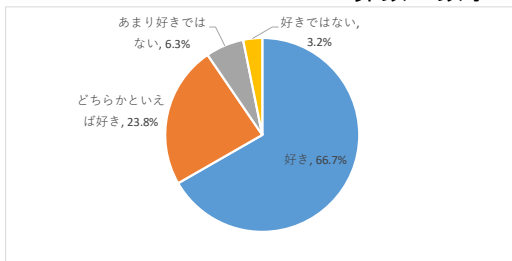
4 最優秀賞 受賞者

部門	学校名	学年	得点	メダルの種類	
小学校の部	個人	島根大学教育学部附属義務教育学校	6年	92	金メダル
	ペア	松江市立乃木小学校	6年	93	金メダル
		松江市立乃木小学校	6年		
		益田市立吉田小学校	6年	93	金メダル
		益田市立吉田小学校	6年		
中学校の部	個人	安来市立広瀬中学校	3年	100	満点メダル
	ペア	島根大学教育学部附属義務教育学校	9年	98	金メダル
		出雲市立第三中学校	3年		

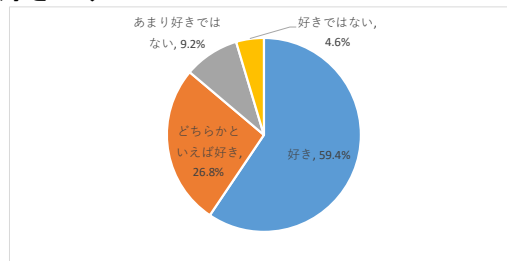
5 アンケート結果

小学校の部

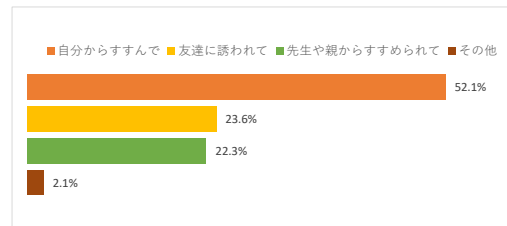
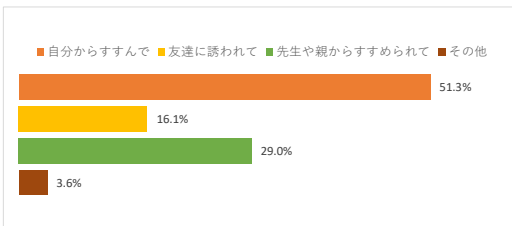
Q 算数・数学が好きですか？



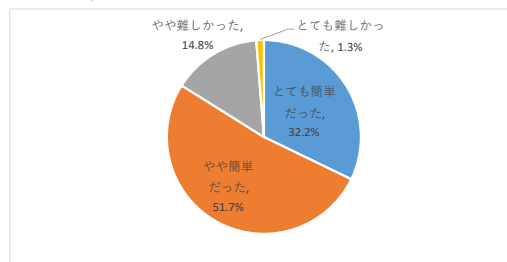
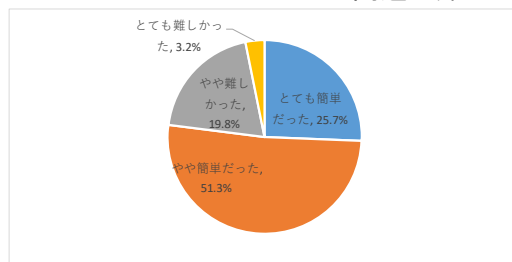
中学校の部



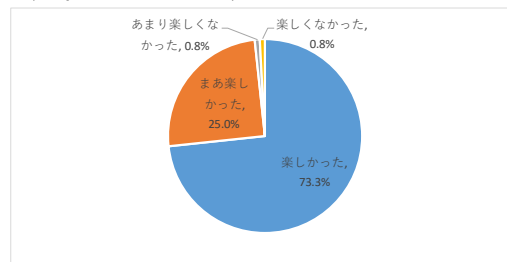
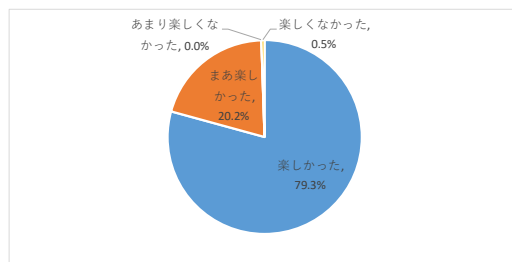
Q 参加したきっかけは何ですか？



Q 問題は難しかったですか？



Q チャレンジして、楽しかったですか？



Q 来年も参加したいと思いますか？

